



校長通信

No. 8 令和2年6月5日

和歌山市立河北中学校 校長 戸川定昭

6月1日から、午前・午後の分散登校ですが、1学期を始業し、学習活動を始めました。子供たちは、落ち着いて学習に取り組んでいます。部活動も、午後、登校する生徒を対象に、開始しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止を意識しながら、少しずつ学校の教育活動を広げていきますが、子供さんの様子で少しでも気になることがあれば、担任にご相談ください。



始業にあたり、放送で全校生徒に次のような話をしました。原稿を記載します。なお、実際に話した言葉使いと、原稿が若干違うところもありますが、内容は同じです。

校長始業の挨拶

みなさん、おはようございます。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休業としていましたが、全国の緊急事態宣言も解除され、分散登校というかたちですが、今日から1学期を始業することになりました。まだまだ気をゆるすことができませんが、学習活動が再開できることに、喜びと、感謝の気持ちでいっぱいです。

今日から、約2週間、午前・午後の分散授業、その後、午前中のみですが、一斉授業、そして6月半ばから通常の学習活動をスタートさせる予定です。長期に渡る臨時休業で、心も身体も、慣れない学校生活になるかと思います。不安や悩みも出てくるかもしれません。そんな時は、担任の先生を始め、話をしやすい先生に気軽に相談してください。また、学校にはスクールカウンセラーの先生も毎週、金曜日に来てくれています。まずは、みなさんの心身の健康が1番大切だと思っています。

さて、1学期の始業にあたり、みなさんに覚えてほしい言葉、そして実践してほしい言葉があります。1年生には、入学式でお話しました。それは、残心という言葉です。1年生、覚えていますか？漢字では、心を残すと書きます。デジタル大辞泉では、「武芸で、一つの動作を終えたあとでも緊張を持続する心構えをいう語」「剣道で、打ち込んだあと相手の反撃に備える心の構え」と解説されています。

剣道では、相手に見事に一本打ち込んでも、相手の反撃に備える心身の構え、すなわち残心がないと一本とみなされません。一つの動作を終えた後でも、心身の備えを怠ってはいけないという教えです。私は、10才で剣道を始め、※56歳になる今も、その稽古を続けていますが、剣道から学んだ大切なことのひとつが、この残心です。

日常生活においても、残心の精神は大切です。例えば、食事の後は、心を込めて、ごちそうさまでしたの挨拶をする。授業の後、起立をしてきちんと礼をする。テストが返却された時は、得点だけにこだわるのではなく、間違いをきちんと見直す。こういったことも残心です。残心の精神で、負けて腐らず、勝っておごらず、謙虚な気持ちで、この1年間、がんばって行きましょう！

最後に、もうひとつ・・・学校が再開しても、新型コロナウイルスが完全に終息したわけではないので、毎朝の検温、マスクの着用、こまめな手洗いを怠らないでください。・・・これも残心です。以上で、校長の講話を終わります。

残心

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、防具をつけて相手と相対する実践的な剣道の稽古は今年の2月以降、控えています。